

令和元年度 北海道小学校長会地区活性化支援授業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 小樽市
- 2 事例報告学校名 : 小樽市立奥沢小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長・井村文俊
- 4 キーワード : 地域の環境・教育資源を活かした教育実践

1 はじめに

小樽市立奥沢小学校は明治32年に奥沢尋常小学校として開校し、現在120年を迎える学校である。平成30年4月、近隣の天神小学校、入船小学校の一部と統合し、学校目標も新たに設置し、新しくスタートした。また、校区には勝納川が流れ、それに沿って清酒工場やゴム工場などが点在する小樽市の工業地帯を形成してきた。



平成28年度より3年間、体育専科教員配置事業の学校として、体育の授業改善をテーマに研究推進し、児童の体力や意欲の向上につなげてきた。

2 地域の環境や教育資源を生かした実践の様子

本校では、地域を生かした環境教育、ふるさと教育、キャリア教育等に取り組んでいる。各学年で工夫を凝らし、工場等の見学や体験、学芸員の講話や環境教室、地域の人材による地域の歴史の掘り起こしなど、年間を通して行っている。

(1) 工場や商店の見学を通じた取組

本校の周りには大きなスーパー、ゴム工場、お菓子工場、かまぼこ工場、マンホールを作る工場など、たくさんの工場等があり、おもに1～3年生で見学し、その見学を通してその仕事の様子や工夫について学習している。



ゴム工場見学



かまぼこ工場見学

(2) 公共施設と連携した取組

今年も昨年に引き続き、小樽市図書館と連携した取組「ブックフェスティバル」を開催した。図書館から1000冊を超える本を体育館に運び入れ、図書館司書の読み聞かせなどのあと、一斉に本を貸し出す取組で、児童の読書意識が高まっている。



給食センター見学



ブックフェスティバル

また、校区には小樽市の給食を一手に扱う「給食センター」もあり、2年生が見学している。本校の栄養教諭も兼務で働いており、食育の面も担っている。

(3) ふるさと小樽を知る取組

小樽市は自然や文化にあふれる町であり、「ふるさとに夢と誇りを持ちたくましく生きる小樽の子どもの育成」を基本理念としている。小樽市では全学校が数年前から小樽の夏の風物詩である「潮祭り」のねりこみに



知産志食の取組



屋形船乗船体験

参加している。また、4年生では小樽港内を運行する屋形船の乗船体験、6年生にガラスの魅力を知ってもらう吹きガラス体験を実施している。



松前神楽体験会

本校ではこのほかに5年生で「知産志食」の取組も行っている。これは、地域の食材をテーマに食について学び、その食材を実際に調理していただくという活動である。

このほかにも重要無形民俗文化財にも指定された「松前神楽」の体験なども行ってきた。

(4) 自然を生かした取組

小樽は自然にあふれている町である。本校も周りに公園や川があり、それを題材にした学習を進めている。



学芸員によるお話



地域の方によるお話

低学年では周りの公園を利用した学習を四季折々行っている。3年生では博物館に向いたり、博物館から学芸員を派遣してもらったりしながら学習を進めている。4年生は地域の方に昔の校区の様子や歴史について学ぶ機会がある。5年生では天狗山の自然を題材にした環境教室を行っている。



天狗山の環境教室



公園での活動

また、この2年間、校区の奥沢水源地で行われた植樹祭にも参加している。

3 おわりに

本校では、学力向上・体力向上とともに読書活動の充実や体験的な学習の積極的な導入を目指している。「聞いたことはすぐに忘れる」「見たことは覚えていて興味につながる」「体験したことは理解する」といわれている。たくさんの活動を実際に体験し、経験することで、より意欲的な児童が増えていくことを期待している。